

ALL
本文オールフルカラー!
COLOR

ゼロいじめ。

FOR ADULTS OVER 18 ONLY

ゼロいじめ。

当サークルの同人誌をお手に取っていただきまして、
誠にありがとうございます！

皆様のおかげで、当サークル「悶亭」もなんとか
一周年を迎えることが出来ましたー(^▽^)/。

これからもどうぞ、よろしくお願い
いたします！なのです。

さてさて。
一周年記念に個人誌っていうのも
なんだかなあ…。なので
ゲームの方でお世話になっている
森ぐれいさんや絵師様方を巻き込んで
突発！ゼロの使い魔本刊行です。

はい。
御覧の通りルイズに偏りまくりです。
ルイズ可愛すぎだよルイズ…。
貧乳描くの苦手なんですけど、今回は頑張りましたよー。
やー、もう巨乳描きたくってしょうがないです。(オイ。)

8巻読んで凹みルイズにめっさ萌え萌えしてしまった
私はやっぱり鬼畜なのでしょうか？
でもでも、可愛い子ほど虐めたくくなりますよね？…ね？

ではでは。
相変わらずの強行スケジュールにつき無事サシクワリで
発行できていることを祈りつつ…(こればっか)

2006. 09. 25 悶亭姉太郎

前書きイラスト：たま様寄贈v
ありがとうございましたー(>▽<)

■ タバサ帰郷

「どうだ、我が臣下たちよ。私の可愛い姪シャルロットの陰部の味は?!」
ガリア王ジョセフの陽気な声が響く。

「失礼。今はタバサという偽名を使っているんだっけ?」

「……」

タバサは答えない。
小さな口を中年貴族の生臭い男根に塞がれ答えられない状況ではあるが
もつとも、答える意思も無いのだという事を目を逸らし、伝える。
しかし、その無表情に見える目が薄っすらと濡れているのをみつけたの
だろう。ジョセフの音が歡喜に躍り、一オクターブほど上がった。
「おや、私との会話どころではないようだ!
久しぶりの帰郷だ。皆が歓迎に力が入るのも許してやっておくれ!」

……タバサの父が暗殺され、ジョセフが戴冠して以来何度も、この王と
臣下たちには辱められてきた。痛みにも屈辱にも、もう慣れた。
ただ、身体をまさぐる男たちに対する吐き気を伴う嫌悪感だけは…
何度汚されようと払拭される事は無いだろう。

「!?!」

不意に。タバサの膣内に鋭い異物感が走った。

「うあっ…!」

思わず声が出る。ぞるるるると細長い物が乱暴に突き入れられ、
タバサの小さな膣内を貫通し、子宮口を押しあげた。

「あがっ…うあ…っ…ふ…あ…!!」

異物の正体は杖だった。老貴族が下卑た笑いを浮かべながら、タバサの
未発達な性感帯を突付きまわしている。

「そうおひえるな、シャルロット! 私が命じた行為だ。いつも宴の席で
つまらなそうにしておるお前に、快楽の味を教えてやろうと思うてな。」

快楽? 何を言っているのだろう、この男は? …こんな下種な行為に
快楽など感じようはずは無い。痛みと吐き気、それだけだった。
この異物感も気持ちよさなどとは程遠い……

「!?!」

ビクン、とタバサの身体が跳ね上がる。
老貴族が膣内に挿入された杖で呪文を誦唱したのだ。
水魔法が中を駆け巡り、彼女の敏感な部分を探し当て、
その全てに同時に殺人的なほどの性刺激を与える。

膣内が、子宮口が、乳首が、クリトリスが、舌が、
身体の内側から摘まれ、突かれ、揉みじかれ、こねまわされる。

「うやあああああ…っ!?! あんんっ…あんうっ」
自分のものとは思えない、甘い声が漏れた。まるで発情した雌の咆哮…

一分と待たず

困惑のなかでタバサは、生まれて初めての性的絶頂を迎えた。
思考が真っ白に焼け付く。…が、性刺激は止まらない。
さらにその絶頂のさなか、男根の肉棒が彼女の身体を再び貫いた。
アナルを、膣内を、口内を掻き回す無遠慮な肉棒から
彼女はこれまでに感じた事の無い「快楽」の波に叩き落された。

「あっ!! はああああっ…! うあ!!」
ひときわ大きな声をあげた後、彼女の身体がくたり、と弛緩した。

…じょおおおお…
気を失ったのであろう、惨めに白目をむいたタバサの
なおも犯されている白い股の下に、黄色い水溜りが出来ていく。

「おお、シャルロット何というさまだ! そのように涎をたらした淫らな體で
紳士諸君の前で粗相をする様、天国の我が弟が見たら何と申すか…!」

真っ白に焼け切れた視界の向こう、薄れいく意識の中。
芝居がかったジョセフの屈辱的な言葉は彼女の脳髓に染み込んでいった。

「……いくわよ……。……ふううつ……」

——大きく深呼吸をして、ルイズは炎の魔法を詠唱する。

(途中まで……途中まではうまく唱えられるのよ……。でも何で、その後が読めないんだろう？それでいつも結局失敗しちゃうけれど、今日こそ……！！)

短い呪文だがとても長く感じた。そして全てを声に出し終えたその時——

「……えっ……！？」

魔法陣からほうつ……と、紅い影のようなものが浮き出てくる。

「こ、これって成功ッ……！？うそおつ……！」

——が。普通の炎の魔法と、ちょっと違う気がした。

何かが……おかしい。

その紅い影はだんだんと大きくなり、形を作り出した。

「えっ……これって……し、召喚魔法ッ……！」？
 嘘っ……召喚魔法なんて、私——……えっ……！？」

——流石のルイズも「異変」に気づく。先ほどまで紅く浮き出ていた影が、顔を歪めずにはいられない悪臭と共にグロテスクな魔物の姿へと徐々に形を作っている。

「な、なにこれ……！？何なの……っ？」

ルイズは怖くなり、この場から逃げようと身を翻した。しかし——

「……あつ！？き、ぎやああッ！！？」

しゅるん！と、魔物から伸ばされた粘膜質な糸状の触手が、ルイズの片足を掴みあげ、離れない。ルイズはその場にべしゃっ！と倒れこんでしまった。

「い、痛ッ……な」これ、何よっ……。……ウッ……。……？」

ルイズは自分の足を掴みあげているモノを直視した。毒物でも見たことが無い、グロテスクな魔物が口を開いた。

「契約……ヲ……」

そのおぞましい声に思わずルイズは身体を萎縮させ、かくかくと身体を震わせる。

「契約でござって……っ！？な、何よ、こ、このバケモノっ……。……！」？

無意識のうちに外道の召喚魔法を間違えてしまっていたのだろうか？

「我召還ニ応セリ…契約ヲ……ソノ身体デ、甘露ナル封信ヲ…」

魔物はぬめぬめと黒光りする身体を揺り寄せ、その触手でゆっくりとルイズの身体を拘束してゆく。

「えっ！？や、やたっ……な、何するの！？……んっ！？」

ぐくっ……と、何臭い粘膜がルイズの口内に入り込み、その口を封じてしまう。喉のあたりまで入り込んだソレは生温かく、ぐにやりとした感触が吐き気を誘う。

「んうっ！ん、んううう！！んぐううッ！！んうう~~~~ッ！！」

(な、なにこれ……なに、何なのおつ……！？)

叫びにならない声声をあげたルイズに容赦なく
ぬちゃり…と舌液のようなドロドロしたものを放ちながら、
触手が足を這い上がってきた。

ゆっくりと、要撫するかのように、上へ上へ。
肛門から陰、太股……そして——ルイズの禁断の園へもぐりこむ。

「んう！！ん、んうっ！！んうう、うううう！！」

ぶるぶると首を横に振って抵抗するルイズ。
すると口内を掻き回していた「触手」が
粘膜の糸を引きながらルイズの口からするりと這い出た。

「ぶはっ！…ん、はあ、はあ、はあ…っ……あ、や、やだ、やだああッ……！」

ルイズの困惑する姿を楽しむように、
触手はめるめるとショーツの隙間から秘所へと入り込んでくる。
どうにかしてそれから逃れようと、身をよじるが
触手は数を増やしルイズの上半身を拘束した。

マントと制服をビリビリに剥き、その隙間からずるりと中に潜り込み、
そして乳房の乳房に、敏感なピンク色の先端に、
ねっとりとした自身の体液を塗り付け、遊ぶ。

「ふあッ！！あ、あああんっ……あ、やだ、あああッ！！
お、オッハイそんな弄らないでえっ！？
やだ、あああんっ……」

「ひっ、あ、あああ……あん、ら、らめええっ……あああああッ。
あ、あううう……！！
あっ……ひ、ひあああ！！や、やああッ！！そ、そんなとこ入っちゃう……あッッ！！
！あああ……～～～ッ！！？」

下半身をめめめと蠢いていた触手が、ゆっくりとルイズの腰液で濡れさらばった
秘所につがり…と入り込んでくる。
その感触にルイズはがくん！と顔を歪らし、その弾みで思いっきり触手を握え込
んでしまったのだった——

「ひあああ！！あ、あう、ああ、ら、らめッ……！！あああああんっ。お、おかし
くなっちゃうううッ……！！
んっ、んっ……はあ、あ、ああッ。あああああんっ、すごい、すごいのおおおっ！
！！」

大量の太いものや細いものがルイズの下半身、上半身に潜り込む。
そして再び口内に挿入され、乳房を弄られ、身体中をいびきうにされてしまう——

ルイズは触手の挿入と要撫によって、絶頂を何度も迎えてしまっていた。
が、触手の行商は一向におさまる気配がない。

——魔物の行為は途切れる事を知らず、
何處も絶頂を迎えている小さな身体を繰り返し犯しつつける。

薄れつつある意識の中で、これが淫魔という物なのだろうか、と思い至った。

これも自分が召喚したものなのだろうか。
たどしたら、自分は何てことをしてしまったんだろう——

——私はどうなってしまうんだろう——

「はあ、あ、……ああ、お、もういやあ……！ど、どうしたらいいの……！？
や、やああッ……！！これ以上……は……もう……許してえ……っ！
しッ死んじやうよ……おっ……あ、ひ、ひいいあああんっ！！」

……ルイズは涙をぼろぼろと流しながら……
……尽きる事の無い快楽の園に飲み込まれていった——

放しなさい
下郎！

わ…私を誰だと思
って…

はいはい

女王直属の
女官様…だろ？

ったくその下らない
肩書きを何度
聞いたことやら

くだらない
ですって！？

こんな状況で
股を濡らせて
お高くとまって
やがる。

やっ

ぬちっ

ま、薬の効果
も若干ある
だろうがな。

あの女のせいで

よく覚えとけ
嬢ちゃん、世間にはな
あのクソ女王を
よく思っでねえヤツも
いるんだよ

何人もの友人が
死んでいったんだ
わかるだろう？

お前の連れも

あの女のせいで
死んだんだからな。

■ルイズまわし■

閑亭姉太郎

ばあか、貴族様だぞ
御供一人死んだくらい
どうとも思う
訳ねえだろうが！

そうでもねえぜ
アイツがいれば俺達に
杖を取りあげられる事も
なかっただろうさ

ちつとは
惜しんでやっても
いいと思うぜ
お嬢様。

急げ！他の
乗客に見つかる
とやべえぞ！

ああ
悪リイ

おい、とつとつ
犯っちま
おうぜ！

嫌み
アホ
あー

あがあ
うあ！！





よっしゃ
二本挿し成功！

うはーっ
処女マンコ最高！

ズッ

ツッ



— お？ —



かっ



おい何か
静かになって
ねえか？

貫通の痛みで
気を失った
んじゃないの。

声ねえと
つまんねえだろ
おこせよ

サイトお
大…好きなのオ

あはあ♡

お願い

痛い…
ガマンする…からあ
優しくキスしてえ

何だあ？
現実逃避か？
お嬢様は精神力が
弱くていけねーや。

王子様の夢でも
見てるんだらうよ
お幸せなこった。

はっ

あ…んっ

はっ

はっ

ちゃんと
大好きって
言うから…！

恥かしくても
して欲しい事全部
素直に言うからあ

だからっ

もっと…サイトで
いっぱいにしてえ

ずっとこのままでいて
…どこ…にも
行かないで…え…

ド
ド
ド

ド
ド
ド

気持ち
いいよオ

私の中
サイトで
いっぱい

すげえエロ穴
締りすぎ！

うおっ

ビクッビクッ

ギョウウ

ああ

ビュ

ビュル
ビュ

ひ
あ

ビュ

ドン

はっ

あ

ド
ゴッ

グ
ゴッ

あー出た出た
むっちゃ出た。
お嬢様、妊娠
しちゃうわコレ♡

じゃ、俺次は
口についっむわ

おい早く
代われよ！

おいおい大貴族に
ケツに入ってたチンポ
舐めさせるんかよ

サイ…トお

もつと…
サイトで
いっぱいにして…

何も考えられ
なくなるくらい…

ずっと…

Fin



イラスト：渚

HENRIETTE



SEE YOU!

発行：悶亭

発行日：2006年10月1日

18歳未満閲覧不可
無断転載・コピー販売を禁止致します。

お問い合わせ：mail@modaetel.sakura.ne.jp

悶亭ホームページ（「悶亭」で検索・もしくは下記アドレス入力）

<http://modaetel.sakura.ne.jp/>





ゼロいじめ。

FOR ADULTS OVER 18 ONLY